

# 公益財団法人 日本骨髄バンク 第48回 業務執行会議 議事録

日時：平成29年12月18日（月）17：30～18：05  
場所：廣瀬第2ビル 地下会議室  
出席：齋藤 英彦（理事長）、小寺 良尚（副理事長）、浅野 史郎（理事）、  
鈴木 利治（同）、高梨 美乃子（同）、谷口 修一（同）、橋本 明子（同）  
欠席：伊藤 雅治（副理事長）、加藤 俊一（理事）、金森 平和（同）、佐々木 利和（同）、  
高橋 聡（同）  
陪席：瀬戸 愛花（厚生労働省健康局難病対策課移植医療対策推進室）、佐藤 太亮（監事）  
傍聴者：1名  
事務局：松菌 正人（事務局長）、渡邊 善久（総務部長）、大久保 英彦（広報渉外部長）、  
小瀧 美加（移植調整部長 兼 新規事業部長）、五月女 忠雄（ドナーコーディネーター部長）、  
小島 勝（広報渉外部 広報TL）、谷澤 魅帆子（ドナーコーディネーター部 指導研修TL）、  
関 由夏（関東地区事務局地区代表）、上原 淳（総務部）  
(順不同、敬称略)

## 1. 開会

開会にあたり齋藤理事長が挨拶した。

## 2. 業務執行会議の成立の可否

業務執行会議運営規則第6条により本業務執行会議が成立した。

## 3. 議長選出

業務執行会議運営規則第5条により業務執行会議の議長は理事長が当たることとされており、齋藤理事長が議長に選出された。

## 4. 議事録署名人の選出

議事録を作成するための議事録署名人は業務執行会議運営規則第8条により議長及び出席した副理事長がこれに記名、押印しなければならないとされており、齋藤理事長と小寺副理事長がこれに当たるとされた。

## 5. 議事録確認

前回の業務執行会議の議事録案を全会一致で了承した。

[議 事]

## 6. 協議事項（敬称略）

### (1) ホームページの見直しに関する検討

小島広報渉外部チームリーダーが資料に基づき説明した。

背景である。ドナーの数的側面と質的側面。数的側面として、年齢超過による登録取消者が毎年増加しており、対策が必要である。質的側面として、コーディネート期間短縮に寄与するよう、提供意識の高いドナー登録者を増やす。喫緊の課題としては若年層の登録推進と既登録者へのリテンション。若年層への情報発信ツールとしてSNSの積極的活用。このSNSの活用として12月11日に公式Twitterを開設した。本日はちょうどバンクの創立記念日なので26歳になりましたというツイートをしている。Eメールによる登録ドナーへの情報提供も今後活性化したい。

ホームページ現状の問題点として、現在の公式サイトは情報量が多く見づらく、検索しにくい。よって必要な情報を入手するまでに時間がかかる。現在の公式サイトは、医師や患者さんへの情報提供という役割もあるので、情報量が多くなるという側面がある。ドナー登録者向けのサイト「ドナーズネット」というものがあるが、目立たず、辿り着けない。公式サイトへのアクセス数7万3344件に対し、ドナーズネットは10分の1くらいであり、若年層への情報発信サイトの役割を十分果たしていない。問題点ではないが、現在スマートフォンからのアクセスが約7割となっている。

こうした背景や問題点を踏まえたホームページリニューアルの目的である。(1) SNSで骨髄バンクに関心を持った人やドナー登録希望者が簡単に目的のページへ辿り着けるようにする。(2) ドナー登録者にとってリテンションとなる情報をわかりやすく掲載する。

具体案である。今回は一部リニューアルということで、公式サイトに大きく手を加えることはせず、現状のトップページを変更し、SNS等で関心を持った人が“骨髄バンクとは”“ドナー登録とは”といったページへ行きやすく誘導できるようなリニューアルを考えている。情報発信のベースとなるサイトとして「ドナーズネット」をリニューアルすることでスペシャルサイトとして新たに立ち上げたいと考えている。内容として、ドナー登録推進やリテンションに応じた内容、体験談を動画で紹介する。現在もドナーズネットで体験談を紹介しているが動画はまだ入っていない。動画も重要な要素として考えている。さらに、いつ見ても同じというのではなく定期的に更新を考えている。TwitterやFacebookと連携する。スマートフォン、タブレット、PCの何れのデバイスからも見やすいデザインにして、公開予定は4月を考えている。

補足資料について説明する。上のイラストが現在、下が変更後で全体のイメージを表している。現在の公式サイトは、患者さんやドナー登録希望者、医師など骨髄バンクのステークホルダーと言われている人たちが公式サイトに行くような形である。Facebookも開設しているが、連携が取れていなかったり、ドナーズネットの存在感がない。変更後は公式サイトと、もうひとつ内容の住み分けとしてスペシャルサイト、これがドナーズネットのリニューアルと考えている。公式サイトは辞書的な役割としてドナー登録関連以外の役割を残して、ドナー登録を希望する方や興味をもった若い方、TwitterやFacebookから関心を寄せてくれた方には、スペシャルサイトに分かりやすく入れるようにしたいと考えている。例えば登録希望者がTwitterやACの広告、テレビ等を見て登録してみようかなと検索するとすぐに登録方法や登録会場一覧のページに行ける。提供ドナーや患者の話を知りたいときには動画体験のページにすぐに行けるようにする。知りたい、見たい情報に簡単にたどりつけるサイトを目指している。また既に登録されている方が、Twitterを見たときに「そういえば、引越したかな」と思ったときにすぐに住所変更のページに、「提供する時に仕事休めるかな」というときには休暇制度、助成制度紹介のページに飛べるように、Twitterで引越しシーズンに「みなさん、引越しされましたか。」とツイートすることによって、登録者を誘導できるサイトを考えている。左が公式サイトトップページ、右がドナーズネットのトップページである。本サイトのドナー登録をお考えの方へとドナーズネットを

融合させたものがスペシャルサイトになる。トップページを変えるという説明をしたが、現在の本サイトの青い部分、このスペースを活用して、簡単にたどり着けるような誘導ボタンを配置したいと考えている。青い部分は現在静止画が何画面か自動的に変わるように写っている。以上の具体案は広報チームが現時点で考えていることで、今後デザイン会社の専門家の意見を取り入れながら進めていきたい。

以上の説明の後で意見交換が行われ、全会一致で承認された。

(主な意見)

<小寺> トップページはどのようなイメージになるのか。

<小島> 具体案の最後のページ、本サイトトップページの形でリニューアルを考えている。

<小寺> WMDAのホームページは、最初に開くページはとても単純である。そこからクリックして選んでいく。たとえば、新しくなる本サイトトップページのバナーというか右側のは必要なのか。もう1回クリックしたら出てくるくらいにして、見ると最初からノイズな感じがする。もうちょっと単純に入り込めるようにしたほうが、拒否反応が少ないかなと感じる。

<小島> そういった意見も踏まえながらトップページを変えていきたい。

<橋本> TOP ページの動きが活発なホームページがいろいろなところにあるが、今までのシンプルなものが良いと思う。動きがあるのは、作り手としてはやりがいがあるのだろうと思うが、かなり暑苦しい感じがある。今回の改定の大きなポイントは、時代として閲覧する人たちのアクセスツールがスマートフォンに変わったということである。見る画面は本当に小さくなるので、トップページをさらにシンプルにするのは大事なことだと感じる。

<浅野> 費用はどれくらいかかるのか。経常的にはいくらかかっているのか。

<大久保> 今のところ1千万円を考えている。

<浅野> リニューアルに1千万円もかかるのか。

<齋藤> こういうIT関係の値段は高い。

<大久保> 全部変えようとするとは前は5千万円くらいかかった。経常的には全部で月30万円くらいである。

<佐藤> バンクのFacebookは非常に見やすい。同じようにしたらよいのではないか。そんなにお金がかかることに驚いている。デザイン料なのか。

<大久保> 他にホームページ内の情報を整理するのでそれくらいかかる。1千万円以内と考えている。

<齋藤> 値段は見積もりをとって競争させるのか。

<大久保> そのとおりである。

<橋本> 値段は極めて妥当だと思う。うちも小さなホームページをもっているが、これで働いている人の技術はすごい。常に時流のトップを捉えていかないとたちまち古くなる。セキュリティーのこともあるし妥当かなと思う。

<谷口> Twitterのフォロワーをチェックしたらまだ26人しかいない。これは少なくないか。

<大久保> 開設したのが先週の11日月曜日で、まだ1週間なのでこの状況である。

## 7. 報告事項（敬称略）

### (1) 骨髄さい帯血バンク議連総会の報告

大久保広報渉外部長が資料に基づき説明した。

骨髄・さい帯血バンク議員連盟総会が11月24日金曜日に参議院議員会館で行なわれた。厚労省の移植室から3名、総務省の自治財政局から1名、バンクから小寺副理事長、松菌事務局長と私の3名が出席した。内容について、最初に議員連盟の人事案で副会長に立憲民主党の吉田統彦衆議院議員が新たに選出された。続いて、骨髄・末梢血幹細胞移植を巡る最近の動向について、厚労省移植医療対策推進室の井内室長から説明していただいた。造血幹細胞移植実績、日本骨髄バンクにおける収支状況、患者負担金、コーディネート期間短縮に向けた取り組み等について井内室長から発表していただいた。その後、加藤大臣宛の決議文を議連総会で内容を確認し、11月29日水曜日に厚労省大臣室に伺い、大臣に申し入れを行なった。決議申入れ参加者団体は、議連の先生方、日本骨髄バンク、日本赤十字社、日本造血細胞移植学会、全国骨髄バンク推進連絡協議会、さい帯血国際患者支援の会、血液情報広場・つばさからは橋本理事長もお越しいただいた。野田会長は同席できなかったが、浜田副会長から加藤大臣へ決議文をお渡しした。

### (2) 2019 日本医学会総会の概要

大久保広報渉外部長が資料に基づき説明した。

第30回日本医学会総会2019中部の案内が来た。前回は2015年3月に神戸国際会議場で行なわれ、その時にバンクでは絵本朗読会、ミニコンサート、ドナー登録会を実施した。会期と会場である。再来年の2019年3月30日から4月7日にポートメッセなごや、名古屋国際会議場等で行なわれる。会頭は齋藤理事長である。疾患啓発イベントのご案内というページの候補団体10団体にイベントの依頼をしていくと案内があった。前回バンクも参加していたので、今回もご案内いただいた。イベント以外にもPRや展示ブース出展についても依頼をしている。再来年だがこれから準備を進めていく。

### (3) 調整医師の新規申請

谷澤ドナーコーディネート部チームリーダーが資料に基づき説明した。

11月13日～12月8日の期間で新たに申請・承認された調整医師の数は1名である。これで計1181名になる。

### (4) 募金報告

大久保広報渉外部長が資料に基づき説明した。

11月の実績は442件、金額で579万1305円、前年度と比較すると件数はマイナス35件、金額ではマイナス270万円である。累計では件数で4451件、昨年と比較するとマイナス512件、累計の金額は6716万7477円で前年と比較すると約420万円7千円のプラスである。一般の患者さんの関係の方から100万円いただいた。昨年の11月は株式会社読売巨人軍か

ら 200 万円をいただいていた。今年、目録はいただいているが、まだ入っていないので、おそらく 12 月末に入金されるのではないかと考えている。また去年は「サンキュー！未祐ちゃん」という声優さんの追悼イベントがあり 76 万円という大きな寄付があった。今年はそのようなことがないためマイナス 270 万円という結果であった。

(主な意見)

<浅野> 個人Tさん、継続寄付者一般は患者関係でも病院関係でもないということか。

<大久保> これは寄付の種類が一般で、患者負担金とは別で一般寄付でいただいたもので患者さんの家族である。

<浅野> イニシャルになっているが、実際には匿名ではないのか。

<大久保> そうである。個人名を出さないようイニシャルにしている。

<浅野> 私は日本フィランソロピー協会の会長をしているが、寄付文化を根付かせるということもあって、ほんの3日くらい前だが「まちかどのフィランソロピスト賞」というのを毎年している。寄付をしている人を顕彰するイベントである。広報もされるので、こういう人が応募してみたらいいかなと思った。表彰する委員会があり、応募して顔を出さなくてはいいけないが、名前を出さなくていいというのがあるのか。

<大久保> そういうことはない。

<齋藤> それはどうやって応募するのか。

<浅野> 応募というよりこちらで見つけ出す。自分を表彰してくださいというものもおかしいので他薦になる。今回特別賞をもらったのは前Jリーグチェアマンの川淵チェアマンである。毎年誕生日に何十万円か寄付している。堀田勉さんの記事を見て、寄付したいとそこに行った時のエピソードで、どのくらいの額にしたらいいでしょうかと聞いたら、堀田さんからはちょっと痛いくらいということで今までに累計 1500 万円くらい寄付をしている。そういう寄付文化を顕彰していこう、それによって寄付文化を広めようというのが、まちかどのフィランソロピスト賞の趣旨である。この人がもしその対象になれば、いい効果があるのではないかと思った。

<齋藤> 寄付先は公共的な目的ならどこでもいいのか。

<浅野> いろいろな形がある。被災地、貧しい国に学校を建てるため、前々回に表彰された人は子どもがほめられると 1 回 20 円寄付するというのもあった。

(5) 厚生労働省・日本赤十字社・日本骨髄バンク 3 者会議

大久保広報渉外部長が口頭で説明した。

三者事務連絡会議が 11 月 27 日に厚生労働省であった。厚生労働省、日本赤十字社、日本骨髄バンクで情報交換を行った。前回 10 月 17 日の会議で持ち越しになった案件や調査する項目を発表した。バンクからは加藤理事、松菌事務局長、私、広報から小島チームリーダー、ドナー登録会担当の林、5 名が出席した。献血ルームへの説明員派遣事業を埼玉や神奈川で行ってきたので、その事例を報告した。各県で開設している骨髄バンク推進協議会設置で登録者を増やした事例、海外の応諾率、ドナーリテンション施策で Twitter の開設などについて報告した。日本赤十字社からは登録者の情報比較、沖縄は若年者の登録

が非常に進んでいるので全国と沖縄の比較等の情報、都道府県献血ルームの年代別登録状況について10代20代の登録の多いルームの報告等いろいろな情報をいただいた。日赤は登録のときのいろいろな情報を持っているので、こちらでお願いをして活用していきたい。たとえば助成金を申請する場合、各市町村から問い合わせが来るが、バンクはドナー登録者の市町村別の情報は持っていないので、提供された方の数だけ市町村に伝えている。そういったところも情報をいただいて市町村の助成金作成導入のための予算作成で役立つような情報等をこちらで依頼していきたい。また井内室長のほうから、献血ルームの説明員配置について全国一律につけるのではなくて、効果の上がるどころ、熱心なところについて配置していったらどうかと提案があり今後の協議事項となった。

以 上